

大阪支部関係の方々との出会いで拓けた私の思い

原 通範 (和歌山支部)

OSBG'Z 会長・黒井信隆さんから「大阪支部 50 周年への提言」という大変重厚なお題目を戴いたのですが、私はそのような趣旨のことを書ける才覚をもっていませんので、表題の如く、私なりに大阪支部 50 周年を祝う気持ちを綴らせていただければと思います。

私が体育同志会に関わることになったきっかけの主因は何と言っても、1989 年秋に和歌山の紀の国会館（現在の「アバローム紀の国」）で行われた関西ブロックの集会においてです。その当時まで私は、体育同志会との直接の関わりはないものの、さも知ったかのように体育同志会で生まれた『ドル平』を、私なりの理解で私の勤務校（和歌山大学）で教えていました。牧野満さん、辻内俊哉さん、佐々木盛文さん、そして私が和歌山市内で行っている障がい者のプール指導のお手伝いを学生時代にして下さっていた中川豊さん等はそのことを少なくとも記憶のどこかにあるのではないかと思います。で、「ドル平」、「技術指導の系統性研究」といったものが私にとっての「学校体育研究同志会」像でした。

その関西ブロック集会には出原泰明さん（当時日本福祉大学教員）が講演者で見えられるということで、彼は私の出身大学院の定例研究会などで当時よく聞かされたお名前でしたので、私は学生たちも誘ってその研究集会に参加しました。

「子どもたち、僕らを乗り越えろ!」。それが出原さんの講演内容で、同志会は系統性研究、つまり効率的にステップ by ステップで体育の教材を教えることを続けてきた研究団体だと思っていましたので、私は同志会の教育・研究の目的がそうした未来志向の「学習・研究の主人公」を育てることに、創設以来継続的に取り組んでこられたことを知り大変な感銘を受けました。これが同志会をもっと知りたいという私の同志会希求への根底の動機となりました。



和歌山支部結成会（関西ブロック集会）

1990 年 11 月 17 日 和歌山市紀之国会館

その次は翌年90年4月はじめ頃のことでした。黒井さんが現和歌山支部長の山野真さんたちが営んでいた「和歌山市保体研」の研究会講師に見えられ、講演の後、黒井さんより夏の全国大会が高知であるので「来いひんか？」と誘われました。この黒井さんの仕掛けが私にとって、秋の和歌山支部結成の一員に加わることになった直接の主因となりました。

しかし今思い返せば、同志会への希求の端緒は1980年代のいつ頃だったかは忘れましたが、夏に愛知県蒲郡市で行われた「近畿東海教育研究サークル」の研究会で初めてお会いした榊原義夫さんとは、その後大教組の教研集会にお招きを受けて、私自身よく把握してもしない問題で研究協力者をさせていただいたことがあり、その際はご期待に応えられず大変ご迷惑をおかけしたと私の脳裏の一角を占めています。その後何かと機会ある毎に研究集会等で榊原さんとご一緒させていただく度に、その洞察力の鋭さに驚嘆するのですが、それは榊原さんご自身が障がい児教育や商業高校生などとの直接の交わりを通じる中で得た、類い希な彼ご自身の教育の研鑽に負うところが大なのだと思います。とりわけ、石田智己さんの後を和歌山大学に非常勤講師で来て下さっていた際、彼と学生との授業における対峙の仕方を拝見していて、その思いを今も強くもっています。他に、私の住む和歌山に近い泉南方面にいらっしゃる方で、渡瀬克美さん、そして船富公二さんには、随分前からいろいろとお世話になりました。最近では2019年の全国大会「和歌山大会」で船富さんには実行委員、渡瀬さんには子ども学校の校長先生としてひとかたならぬお世話になりました。有難うございます。

いずれに致しましても、大阪支部には、これまでたくさんのそれぞれ専門分科会で活躍されている先生方に、和歌山支部の研究例会や白浜研究集会などで教えていただき、その方々の研究力量や教育指導力には感嘆することしきりです。それはおそらく、グループ学習を通じての指導方法がその土台になっているのかと思います。中川孝子さん、船富公二さん、山本雅行さん、安武一雄さん、竹内進さん、本郷美代子さん、牧野満さん、そして前田雅章さん、等々の方々です。まだ他にもいらっしゃるかも分かりません。今思い返して、ざっと思い浮かんだお名前の方々だけを列挙させて戴きました。

大阪支部では、とりわけグループ学習の伝統に研鑽を積んで今も全国での研究大会などで活躍の先生方が多いですが、私自身にとっては、大阪での小学校をわざわざ休職して和歌山大学での大学院生として来られた前田雅章さんとの授業というか、論議の場がとても懐かしいです。殆ど、彼に大変お世話のかけ通しでした。どちらが教員でどちらが学生なのかよく分からない点もあるほど、前田さんのグループ学習方法論＝教科内容と教材の関係についての授業展開での具体的方法論は、大学院の受講生対象に行ってもらったこと。また、和歌山大学を卒業していく人々に「教職実践演習」の授業をお願いし、教育現場で大切にすることの理念やノウハウを教えてもらって、同席にて担当した私にとっても大変有益な学びの機会でもありました。声には出せないことではありますが、「無給講師」として、大学院生としての教育実践演習の機会でありましたね。前田さん！

このように、大阪支部としては50年間の同志会での研究と教育実践の蓄積を、ぜひとも有意義に支部の今後に継承・発展していただきますよう祈っています。